

開物成務

発行責任者
逗子開成学園校友会
〒249-8510
逗子市新宿 2-5-1
逗子開成学園内
TEL.046(871)2062
<https://z-kaisei.org/>
E-mail:info@z-kaisei.org

題字・逗子開成学園
元理事長 徳間康快氏

「開物成務」の由来
人間性を開拓・啓発し、
人としての務めをなす

吹奏楽部創部95周年 音楽と絆が繋ぐ95年

はじめまして。中学校

再開3期生、吹奏楽部OB会事務局長をしている94年卒(高46回)の片桐隆信と申します。本校吹奏楽部はこれまで、全日本吹奏楽コンクール(全大会)8回出場したほか、東日本大会出場、神奈川県代表として47回の関東大会出場といった本県の吹奏楽史に名を刻む実績をあげている部活です。

生、そして現役部員との絆を尊重し、相互の親睦を深めることを目的として活動しています。1928年に創部された当部は、現存する日本最古のスクールバンドとして歴史を刻んで参りました。創部95周年・学校創立120周年演奏会開催に際し、逗子開成吹奏楽部の歴史と未来についてお伝えできればと思います。

【歴史】

まずは、本校吹奏楽部の歴史から遡ります。本校の創立は1903(明治36)年4月18日、私立東京開成中学校の分校として私立第二開成中

学校として私立第二開成中

学校として開校。学校創立の25年後、1928(昭和3)年の6月、私達の吹奏楽部の前身である「振武隊」が創設されました。

1934(昭和9)年には第2代指揮者、中村政雄先生着任。中村先生は本校での指導はもちろん、全日本吹奏楽連盟理事長として、連盟の法人化を実現するなど要職を歴任、日本の吹奏楽の普

及、発展に大きな功績を残します。(全国大会出場3回…銀賞、4位、8位)

1971(昭和46)年

第3代指揮者、渡仲郁夫先生着任(74年)

1974(昭和49)年

第4代指揮者、西野明男先生着任(03年)

1985(昭和60)年

日中国交正常化記念に瀋陽・遼陽で開かれた演奏会での招待演奏。この訪中演奏の際、作曲家・小長谷宗一氏に依頼して作曲された楽曲が、今回の記念演奏会でも披露する日本の調べ「Japanese tune」です。

1988(昭和63)年、本校創立85周年を記念して、團伊玖磨氏により「逗子開成讃歌『海』」が作曲される。(全国大会出場5回…金1・銀2・銅2)

2003(平成15)年、第7代指揮者、千葉大樹先生着任(現在)(第

6回東日本吹奏楽大会銀賞。第7回東関東選抜吹奏楽大会出場)

これまで神奈川県代表として47回

関東大会出場(196

0年からは

31年連続A部門代表)。

進学校としても歩みを進める母

校の卒業生としても、

近年の吹奏楽部卒業生は、大学進学でも輝かしい実績を残し、まさに文武両道

(ペンと剣)を実践する部活となっています。

また、首都圏を中心に

各大学でもオーケストラ、吹奏楽、ビッグバンドなどで主力級の奏者として活動が続けており、



第7回東関東選抜吹奏楽大会
東関東選抜吹奏楽大会出場：2007年



第6回 東日本中学校吹奏楽大会
東日本吹奏楽大会銀賞：2006年

昭和三年度

校友会名簿

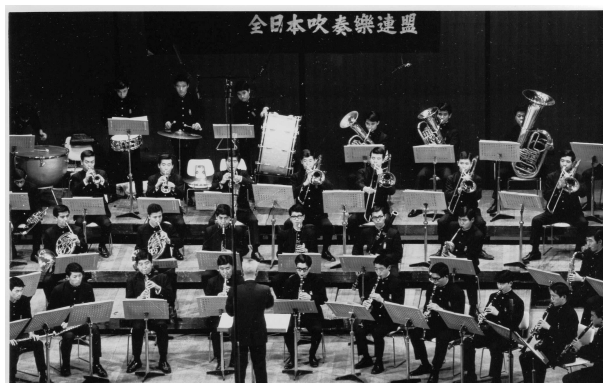
附録 校友会報



逗子開成中学校校友会

照参事記

校友会名簿表紙を飾る振武隊の行進



全日本吹奏楽連盟
第16回 全日本吹奏楽コンクール
1968.11.17(日) 京都市京都市会館
音楽部として全国コンクール4位：1968年

【次頁に続く】

多くの学生音楽の現場を支えています。

【未来】

本校吹奏楽部は振武隊として産声を上げてから音楽部、吹奏楽部の変遷を経て、本年創部95周年を迎えます。

様々な外部環境の変化、中学再開からの進学校化の流れの中、部活が存続していたことは、学校側はもちろんです。顧問の先生や保護者の皆様がその時代、その時、その瞬間に大きなサポート



逗子開成高校吹奏楽部創立50周年記念演奏会
79.6.16 於 神奈川県立県民ホール
創部50周年記念コンサート：1979年

を頂き、部員の皆が音楽に情熱を燃やし絆を繋いでくれたからだと思

っています。本校吹奏楽部に関わってくださった全ての皆様に改めて御礼と感謝を申し上げます。

私は吹奏楽部の6年間の部活動を通じ、音楽を通じて共創力・感性・感動、OBや同級生・後輩との友情や絆といった「無形の財産」を得たと思っています。私がOB会に携わっているのはこの財産を得たことへの感謝と「無形の財産」を後輩に繋いでいきたいの思いこそが全ての原動力になっています。今後ともRoad to 100th(創部100周年への道のり)を超えて吹奏楽部の現在・未



創部90周年記念コンサート：2018年

校友データ収集にご協力下さい

2003年1月、母校創立100周年の記念事業のひとつとして、逗子開成学園校友名簿を発行しました。

これには1907年3月卒業の旧制中学校1期から2003年3月卒業の高校第55回まで、それに1957年3月卒業の定時制高校1回から1967年3月卒業の定時制高校11回の卒業生の氏名や住所などが掲載されています。

その後、個人情報保護から名簿の発刊はせず、クラウドで安全性を担保したデータで管理をして

います。

毎年、母校から提供いただく卒業生データを2003年発行の名簿をもとにしたデータに追加していくことで現在の「逗子開成学園校友データベース」を維持しています。

卒業生総数3万1千641名。管理しているデータ数は2万1千674名ですが物故会員、住所不明、退会を除くと実数1万8千242名です。

卒業後、校友相互の親交、クラブ活動OB会、職域校友会、また校友会が企画するビジネス交流会などのために次の情報が必要です。

・在学時所属したクラブ活動

・職業、勤務先
・Eメールアドレス

連絡はホームページ「逗子開成卒業後の登録情報変更連絡フォーム」で検索し、フォームに入力して送信して下さい。個人情報取り扱いと保護についてはホームページ「逗子開成校友会個人情報」で検索をお願いします。

同期やクラブ活動OBのつながりで、校友会から会報などが届いていない卒業生をご存知の場合もぜひお知らせ下さい。登録させていただきます。

IT推進プロジェクト
柴田一男(高21回)

先行きの見えない中でも前進を！

逗子開成学園校友会会長

後藤 寿一

(高19回)



明けましておめでとうございます。校友の皆様におかれましては新たな気持ちを持って、新年を

迎えられたことと思います。

昨年は年明け早々ロシアによるウクライナへの

武力侵攻、急激な円安、未だに続くコロナ禍と国内のみならず世界全体が混乱の渦の中にいるような状況です。

そのような中ではあります。母校は今年創立120周年を迎えます。校友会といたしまして120周年記念事業の一環として、次の3点を行います。

①本年2月11日(土)創立120周年兼吹奏楽部

創部95周年記念コンサートにおいて主催・学校、共催・校友会という形で実施。

②八方尾根開成ケルン修復工事が年度内に完成するよう契約に至るまでを手配する。

③記念グッズとして、生徒のアイデアによるビーチサンダルを「げんべい」とのコラボで作成する。

校友会もコロナ禍の中、昨年8月を除き幹事

会を行ってきました。IT委員会による名簿管理の充実、又、新会員の加入によって少しずつではありますが、新たなネットワークづくりも進めています。

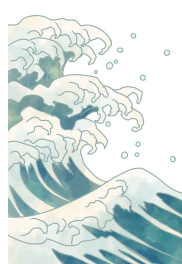
学生時代だけでなく、社会に出てから特に感じる同窓の絆のありがたさというものを広めていきたいと思っています。

母校の2022年度の大学入試では東大9名、

北海道大学19名など国公立大学116名、早・慶・上智140名他、東京理科、MARCHなど有力私大への合格者を多数出しており、県内有数の進学校としての地位を維持しています。

今年も先生方のご努力に感謝申し上げます。一人でも多くの受験生が良い結果を得られますことを心より願っております。

校友会もPTAの皆様



八方尾根慰霊登山を終えて

逗子開成中学校・高等学校教諭 宇野 一成(高29回)

8月23日(土)の日程で、52日有会志3名(大須賀氏、葉袋氏、宇野)と、恩師である坂田先生の4名で、八方尾根の慰霊登山に行つてまいりました。昭和55年(1980年)12月におきた遭難事故で犠牲となつた生徒5名、教員1名の慰霊と、この事故の記録や記憶が風化しないようにするため例年行つ

ています。しかし今回は、次年度が本校120周年にあたり、その記念事業の一つとして、昭和59年(1984年)7月に『犠牲者の慰霊と山行者の安全祈願』をこめて建設した「八方ケルン(通称・開成ケルン)」の修繕を行うということがあります。その手続き方法や地元業者の資料の提供などをお願いした際、快くご協力いただいた白馬村役場の担当の方々への御礼とご挨拶も今回の一



左から葉袋氏、本校高2齊藤君と北沢君、坂田先生、宇野

つ目的としてありました。現地に到着した8月23日(火)の午後は、長谷(ちようこく)寺(事故当時、遺体を茶毘だび)にする度に読経していただ

いたご住職のお寺)で手を合わせ、その後白馬村役場に伺い、担当者の方に御礼と今後のご協力をお願いをしてまいりました。翌8月24日(水)はどんよりとした曇り空で雨を覚悟しつつ、午前8時すぎ、いつものようにゴンドラとリフト2本に乗り1850mの八方池山荘に到着しました。ここから坂田先生を先頭に出発し、途中の休憩時には事故当時の状況の話を伺いながら、第2ケルン(2005m、通称・息やすむ)ケルン)を通過し、2



左から大須賀氏、宇野、坂田先生、葉袋氏

035mの八方ケルンまで80分ほどで到着しました。この八方ケルンを目前にした途中で、唐松岳から下山してきた本校高2年の生徒2名に遭遇するという、偶然にもこれはないだろうという実に驚くべき出来事がありました。その興奮と感激した気持ちを引きずりつつ、八方ケルンの外観の様子やその痛み状況を確認した後、その先にある八方池から見る雲間の景色で心と体を休め下山の途につきました。今回の登山では、心配して

いた天気も時折青空が覗き、広がる雲海と木々の緑とともにこれもまたすばらしい景色で癒されたこと、それと何より出会った生徒達が「八方ケルンをしっかり見てきました。」と母校の出来事に意識を持って力強く話してくれたことに心が熱くなりました。

(学校創立120周年記念事業)
逗子開成中学校・高等学校吹奏楽部

創部95周年

記念コンサート

日時 2023年 2月11日(土)
開場: 13:30 開演: 14:00

会場 鎌倉芸術館 大ホール 入場無料
大船駅より徒歩10分

曲目
第1部 いきものがかりコレクション ほか
第2部 新曲演奏会 栄光のペンと剣 ほか

出演 逗子開成中学校・高等学校吹奏楽部
逗子開成中学校吹奏楽部
逗子開成高等学校吹奏楽部

主催 逗子開成中学校・高等学校吹奏楽部
逗子開成中学校吹奏楽部
逗子開成高等学校吹奏楽部

共催 逗子開成学園校友会

お問い合わせ: 逗子開成中学校・高等学校 046-871-2062 顧問: 千葉

一、創立120周年及び吹奏楽部創部95周年記念コンサートとの共催

2023年2月11日(土、建国記念日)に吹奏楽部OB会と現役の部

創立120周年事業 校友会の取組み

員の合同コンサートが鎌倉芸術館で開催されます。校友会では会場費や楽器の運搬費用など運営費の三分の一の負担と観客の動員を担い、吹奏楽部OB会の負担を減らすことで運営や演奏に集中できる環境を作り、コンサートを成功してもらえよう共催します。

二、創立120周年記念ビーチサンダルの作成

現役の生徒から逗子・葉山地区で有名な「げんべい商店」のビーチサンダルで逗子開成創立120周年記念のオリジナル

三、八方尾根開成ケルン修復事業

白馬村の八方尾根にある逗子開成山岳部遭難慰霊碑「八方ケルン」が長年の風雪と2014年の「神城断層地震」の影響で劣化が更に進みました。9月の幹事会では52回メンバーの毎年8月に恒例となっている慰霊登

山にて現地の状況を確認し、その状況を校友会に報告。それを受けた校友会と学校側で意見交換をした結果、校友会が修復内容の確認及び施工会社の選定、発注に至るところまで担当することになりました。事前に白馬村がまとめて学校に送られてきた現地建設会社のリストを元に、後藤会長が全ての会社に当たりましたが、ケルンの修復を手掛けられるのは12社中2社しかなく、会社の規模と過去の実績から1社に絞り込みました。

現地建設会社と打ち合わせのため、学校から岩佐事務局長、校友会から後藤会長と52回メンバーで幹事の葉袋さんが10月19日に白馬村に入り、20日に現地建設会社専務と八方尾根の八方ケルンまで登り、状況と修復内容の確認をして見積もりの依頼を行いました。11月の初旬を過ぎるとケルンまで行けなくなる状況で現地建設会社と打ち合わせができたことで、創立120周年の年度内に修復できる見途が立ちまし



た。それぞれの事業の結果や進捗については次の会報開物成務創立120周年特別号(仮称)「で詳しく報告します。

「八方ケルン(逗子開成ケルン)」と「いのちの碑」について

事故報告書「白いケルン」より抜粋一部編集して掲載

山岳部遭難事故の犠牲者を慰霊するために、現地八方尾根に記念碑を造ろうという気持ちは、遺族をはじめ諸関係者の切なるものであった。しかし、これには遭難問題の未解決という内部条件のほかに、現地在国立公園内にあるために一切の建造物を設置することが行政上不可能に近いという難問があった。いっぽう、遭難地の迷いややすい地点に確実な道標を造ってはどうかという意見を耳にした。犠牲者の慰霊と山行者の安全祈願とを込め、合わせて遭難時現地に多々迷惑を掛け、お世話いただいたお返しに、

道標を建設できれば幸いなことであると思われる。国民宿舎八方池山荘の管理人鈴木和彦氏が、昭和57年度当初より、白馬村役場・北安曇地方事務所などの関係諸機関と折衝を続けられた。さらに、昭和58年夏より八方尾根のハイキング用トレッキングコースの整備に際し、特に道標の必要性を強調されるに至った。私も、これとタイミングを合わせ、昭和58年5月以降、建設を具体化するために、積極的に取り組むことになった。

春や夏の季節に、あの八方尾根に立ち、第三ケルンと第二ケルンの、わずか五百メートル足らずの現場を目にすると、き、悔やんでも還らぬ思いと、冬山の恐怖とが心に刻まれるばかりです。二度とこのような事故を起こさないように努めることが、生きている者の責務と感じ、ここに道標建設の意志を表明した。この



道標が、事故を未然に防ぎ、登山者の安全のために役立つことを願うとともに、本校山岳部の遭難にのみ関わるものではなく、広く公共の建築物として後々までも有効に機能することを祈念するものである。

各方面のご協力により、白馬村より「土地の無償貸与」、北安曇地方事務所林務課より「保安林内土地形質変更許可」をいただき、最終的に環境庁の「建設許可」がおりた。

完成後に3点の問題が発生する。完成した建造物が申請時のものと異なるという点で、1つは高さの予定より高くなったこと、2つ目は借用地積が予定より広くなったこと、そして3つ目にはその土地が白馬村所有のほかに国有地を含んでいたことである。そのため環境庁長官あてに「始末書」、白馬村村長あてに「お詫びとお願い」の文書を提出し両者のご理解を得なければならなかった。

建設候補地は4メートル以上の積雪があり、3メートルのケルンでは埋まってしまい、道標の役をしないため、形についても方向指示の機能を持たせ、他のケルンと識別し易いように角錐型にした。



第72回 開成祭

開成祭が10月21日(金・22日(土))の2日間、3年ぶりに外部の来場者を招待して開催された。在校生の保護者以外で来場する方には事前にウェブリンクから申し込み



する方がとられ、当日は受付で受付票を渡すとリストバンドを受け取り、これで校内に入れて再入場も可能。また、サ

ーモカメラで各自検温をしてからの入場。校内をはじめ学校施設で様々なイベントが行われ、校庭では毎年大人気のステージ企画。生徒たちのど自慢や白熱の演奏のライブショー、はたまたファッションショー&コスプレ企画も行わ

れた。体育館をはじめ各教室の参加団体の展示や発表では、この1年間の成果が思う存分発揮されていた。



2023年 逗子開成学園 創立120周年

本校生活、部活動でのエピソードや思い出がありましたら、ぜひ寄稿してください。また、各種のクラブOB会や同窓会などの活動についても記事を集めています。お気軽にご連絡ください。連絡先Eメール info@kaisei.org

現役生徒との交流

横浜国大柔道部OB 富田 守彦 (高63回)

はじめまして。2011年度卒の富田守彦と申します。日頃から諸先輩方にはお世話になっております。私は本校卒業後、横浜国立大学の柔道部へ入部しました。そして現在も柔道が続いており、今でも逗子開成柔道部に

1年度卒の富田守彦と申します。日頃から諸先輩方にはお世話になっております。私は本校卒業後、横浜国立大学の柔道部へ入部しました。そして現在も柔道が続いており、今でも逗子開成柔道部に

本校柔道部は長く歴史の続く部活のうちのひとつで、現在も20名弱の部員数で活動をしています。私も6年間、柔道場で仲間とともに汗を流しました。

感染症対策における部活動の制限や柔道の試合ルール改正、勝利至上主義の見直しなど、競技柔

道の在り方を見直す過渡期だといわれる今、本校柔道部の部員たちにもある変化が見られます。私たちの時代は、先生にメニユーを決めてもらい、吐くほどつらい練習を乗り越え、ようやく稽古を終えることが日常でした。しかし今の生徒たちは、自分たちでメニューを考え、工夫して練習をしています。体幹トレーニングやラダートレーニング、3人打ち込みなどできることを効率的に行っています。

効果は少しずつ結果に結びついてきているようです。寝技を徹底的に鍛え上げた生徒が神奈川県3位に入賞するなど、自



現役生徒さんとの合宿

分たちで考えて練習をしたことが成果として出ました。もちろん先輩方や、私たちのやり方が間違っていたということではありません。時代の変化に合わせて、顧問の笠原先生が生徒に合った指導をされているということですね。生徒が練習メニューについて自分たちで考え、納得していると、練習効率が上がるということとを先生がご指導されているからです。

2年生の生徒に「この練習メニューきつくないの？」と聞いてみました。するとその生徒は「きついですけど、今やっておかないとダメだ」と答えて頑張ります。そして「先輩、乱取りお願いします。」と笑顔で練習に戻っていききました。

これは本校柔道部をつないできてくださった諸先輩方のお力添え、そして何より顧問の笠原先生のご指導あつてのことだと思えます。そんな逗子開成柔道部のOBの一員として、今でも現役部員の活動に関わっていることに感謝しながら、引き続き支えていきたいと思っています。

杯 道 両 武 文 全国高校柔道大会出場



主催：公益財団法人全日本柔道連盟

12月18日に柔道の総本山である講道館で行われた(公財)全日本柔道連盟主催の「第4回文武両道杯全国高校柔道大会」に出場しました。この大会は全柔連によ

り全国の高校の中から、柔道部活動を通じて柔道の持つ教育的価値を重視する文武両道を実践する高校を招待する大会です。先輩達も含め柔道部の部員の活動が認められる事です。これからの出場し続ける事です。

校友会グッズの新たな展開

昨年中に既存の校友会グッズをある程度整理することができました。そこで校友会グッズの新たな展開をするために「商品開発プロジェクト」を立ち上げることになりました。

今まで数々のグッズを作成してきましたが、その中から評判の良かったTシャツ、ネクタイ、マグカップや保護者から要望のあったマフラータオル。

学校より生徒用にワンコインの商品など、生徒から希望を募ることも検討していきます。

校友会ホームページにて該当する事業を生業とする校友にもサブライヤーとして加わって欲しい事、また作成してほしい校友会グッズの募集を掲載しています。新たな校友会グッズの展開が決まりましたら随時、校友会ホームページと会報「開物成務」で紹介してまいります。案



しみにしてお待ちください。

人力飛行機と鳥人間 コンテストの世界

名古屋大学 AirCrafter

鈴木 俊彦 (高72回)



会報『開物成務』を読
まれている同窓の皆様、

初めまして。令和2年に名古屋大学に進学しました高72回生の鈴木俊彦と申します。中高生の頃はなにかと目立ちたがりやで、スピーチコンテストやら劇の主役やら多くの表現の機会をいただき、あの頃ならではの学びを得ることができたことを感謝しています。また昔

から工作が好きだったこともあり、物理科学部には長いことお世話になりました。現在は工学部3年生として具体的な進路や研究分野を模索しながら勉学に勤しんでいるところです。

さて、今回は恐縮ながらも執筆のお声がけをいただきましたので、大学で私が所属していましたサークル「名古屋大学 AirCrafter」を例に、人力飛行機と鳥人間コンテストの世界をご紹介します。

きたらと思います。まず「人間が生物として飛行に向かなすぎる」という根本的な問題に尽きます。今年の機体を例に挙げますと、全体重量の半分以上がパイロットの体重で、全長29mもの翼に対して飛行時には218W(身長170cmの人が約21kgの力を加え続けながら毎秒1回転のペリスでペダルを回すパワー)も必要です。つまり、いかに「軽く」て「力が要らず」に「速く飛ぶ」

機体を作れるかが要となります。さらにGPSや風速から最短経路をとる、より楽に飛ぶかも重要です。私は電気制御の責任者でしたが、通信安定性と軽量化の両立が至難の業です。

次に制作過程ですが、9月12月でカーボン焼いて骨組みを作り、1月3月で翼やプロペラなどの中身をすべて作り、4月7月末の大会までは週末の早朝に静岡や岐阜の飛行場を借りて飛ばして



自分が一番好きなものは何か

ベースボール・マガジン社

明石 尚之 (高67回)



くださったOBのみなさま、ありがとうございます。

大学卒業後はスポーツ雑誌、書籍を出版するベースボール・マガジン社に入社し、今年で3年目を迎えました。国内で唯一のラグビー専門誌「ラグビーマガジン」の編集部員として、主に取材、執筆、編集の業務にあたっています。ありがたいことに1年目から全国いろ

んなところ出張することとができ、最近では地方配属になった逗子開成時代の友人と会うのも楽しみのひとつになりました。私がいまの仕事に就くきっかけは、逗子開成での日々にあります。高校1年の終わりが、数学と社会が得意だった私は文理選択で大いに悩みました。決め手となったのは、当時担任だった宇都宮先生に「明石くんは将来、どうなりたいの?」と質問されたことでし

た。それから「自分が一番好きなものは何か」を考えた。スポーツに携わる仕

事かしたい、という答えにたどり着いた結果、いまに至ります。本校では6年間、水泳部で活動しました。確か、夏合宿の初日のミーティングだったと思います。私は、私と同じくらい水泳が好きだった小柳くんとニヤニヤしていました。つらい合宿だと分かっていたいですが、成長できるのが楽しかったのです。ですが顧問の吉川先生にふざけていると勘違いされてしまい、かなり怒られました(もちろん当時は怖くて、勘違いですとは言えませんでした)。今ではもちろん笑

でご覧いただいた通り、スポーツは自分を熱くさせてくれるものでした。進学した筑波大では水泳部のマネージャーをしながら、大学の新聞部に所属してさまざまな部活動の大会にお邪魔しては原稿を書きました。偶然にも最初に先輩から誘われ、一番熱中したのがラグビーでした。そうした縁もあり、現在もラグビーに関わることでできています。

またラグビーに限らず、ベースボール・マガジン社では社名である野球はもちろん、水泳、陸上、バドミントン、プロレス、相撲などなど、幅広くスポーツを取り扱っています。このチーム面白いぞ、この選手取材してほしい、な

逗子開成OBのみなさん、はじめまして。高67回生の明石尚之(あかし・ひさゆき)と申します。どこからかこんな私を見つけていただき、こうして筆を執る機会を与え

ています。ありがとうございます。また昔

から工作が好きだったこともあり、物理科学部には長いことお世話になりました。現在は工学部3年生として具体的な進路や研究分野を模索しながら勉学に勤しんでいるところです。

さて、今回は恐縮ながらも執筆のお声がけをいただきましたので、大学で私が所属していましたサークル「名古屋大学 AirCrafter」を例に、人力飛行機と鳥人間コンテストの世界をご紹介します。

機体を作れるかが要となります。さらにGPSや風速から最短経路をとる、より楽に飛ぶかも重要です。私は電気制御の責任者でしたが、通信安定性と軽量化の両立が至難の業です。

次に制作過程ですが、9月12月でカーボン焼いて骨組みを作り、1月3月で翼やプロペラなどの中身をすべて作り、4月7月末の大会までは週末の早朝に静岡や岐阜の飛行場を借りて飛ばして

は調整を繰り返すといった具合です。また費用も数百万円ほどかかるため、バイトをして資金を稼いでいます。鳥人間コンテストは2023年で45回目を迎える読売テレビの長寿番組ということもあり、書類選考には毎年3倍近くの競争率があるため AirCrafter が出場できるとは断言できませんが、どのチームも魅力が溢れ

ていますので来夏の放送をご覧いただけたら幸いです。



校友 ゆう・ゆう クロスナビ

ベアーズコーポレーション

(村瀬泰彦/高45回)

東京都・山口県で地域密着型の飲食店舗を展開する企業の総務部長を務めております。新型コロナウイルスの影響で大きなダメージを受けておりますが、衛生管理を徹底し、皆様に美味しいお料理、お酒をご提供できるようお待ちしております。仕事帰りやご宴会、歓送迎会など様々なお集まりにどうぞお立ち寄りください。

また、店舗以外に、全国へ当社こだわり厳選の食材をお届けする販売サイト「縁結び福の花」の運営も行っております。

■■店舗ブランドのご紹介■■

【福の花】

安心・安全な山口県の食材を用いたお料理や、瓦そばを代表とした山口の郷土料理、山口の美味しい地酒をご提供しております。

【ふくの鳥】

創業26年。焼き鳥と鶏料理に大きなこだわりを持って、お客様へ「てしごと」感たっぷりの美味しいお料理と感動をお届けしています。弊社開発、唐揚げグランプリ金賞受賞の48時間熟成唐揚げもお召し上がりいただけます。

【ヤキトンSAKABAアケボノヤ】

質にこだわった本格ヤキトン看板メニューに掲げ、各種ドリンクをご用意しております。気軽にお立ち寄り頂ける大衆酒場です。

【SETOUCHI 檸檬食堂】

安心安全な国産レモン、その中でも最も有名な瀬戸内レモンを使用、料理は基本手作り「美味しく美しい」にこだわっています。瀬戸内の美味しさをたっぷりお楽しみいただけます。

店舗情報



オンラインショップ
「縁結び福の花」



税理士法人吉成会計事務所

(吉成 博史/高47回)

神奈川県横浜市中区で税理士法人を父と共に経営しております。

地域としましては、横浜を中心としつつ、神奈川東京近郊で、父の代から合わせると50年程お仕事をさせていただいております。法人のお客様は、記帳指導、決算、税務申告、税務相談他、色々な分野でお付き合いさせていただいております。

個人のお客様に関しましては、個人経営の税務相談、税務申告はもちろんのこと、贈与や相続についてのご相談やご申告もさせていただいております。

最近では事業承継のご相談が多く、株価評価などについても色々お話をさせていただいております。

現在は、新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちも仕事や会合のスタイルが対面からウェブも含めたハイブリッド形式に変化しており、実務面でも、インボイス制度の導入や電子帳簿保存法などの改正などがあり、しっかり対応できるよう日々勉強しております。

もし、ちょっとした相談をしたいけれども誰にすればよいかわからない、などといったことがあれば、是非一度お気軽に電話、メールなどでご連絡ください。

お問い合わせメールアドレス: yoshinaritax@kfx.biglobe.ne.jp

〒231-0015 横浜市中区尾上町6-83-8

TEL. 045-222-3113

桜木町駅新南口徒歩5分



昭和45年3月に卒業した高22回生の同期会を令和4年11月26日、逗子市内の割烹料理店「魚勝」で実施しました。昨今のコロナ禍の影響で逗子開成学園卒業50周年記念の実施ができないでおりましたが、2年遅れの卒業50周年記念の同期会を実施することができました。参加者は17名とチョット少なめでしたが高田

元学校長の参加のもと50年前の懐かしい話や校歌・黒潮などの合唱で宴が盛り上がりました。次回は海洋センターから望む逗子湾や霊峰富士を眺めながらの再会を約束しお開きとなりました。

(高22回) 西澤 輝



1月に予定していた集まりがコロナ禍の影響で5月に変更、横須賀軍港巡りの観光船にて湾内を一回り。ドブ板通りを散策し、米が浜通りの鳥専門店にて食事。久しぶりの仲間の集まりで皆楽しめました。

(高25回) 高階 勝



高25回が横須賀で懇親

おくやみ

ご遺族や各地区会などから寄せられた訃報です。謹んでお知らせします。

高3回	金子 積さん	高29回	高松 宏昭さん	高5回	木下 皓司良さん
旧38回	高木 利之さん	高22回	石井 宏さん	高6回	佐藤 市郎さん
旧38回	山村喜一郎さん	高12回	横山 清さん	高7回	五本木 章さん
高10回	山下五三七さん	高10回	永田 八郎さん	高10回	山田 八郎さん



<http://www.law-kojima.com>

